(411) 7

## 【随筆】

## 秋ですね

住 吉 尚 (釧路支部)

北獣の三学会・獣医師大会が久しぶりに対面で開催さ れ無事終わりました。十勝支部の皆さんご苦労さんでし た。そして大変お世話になりました。季節はもう秋。9 月10日は中秋の名月、そして満月でした。我が家の庭の 小さな菜園も豊作の内に終了です。11日日曜日に根室管 内北部のタンチョウでも見ようかと思い、出かけました。 国道272号を北上します。西別川を渡ったところから国 道272号を離れ、旧NOSAI計根別診療所まで北上。こ こから西へと走りましたが全く収穫なし。中標津を過ぎ て標津川の北岸近くの道を行きました。ひとつがいのタ ンチョウを見ましたが、どうやら2羽とも足輪がないよ うです。さらに進んで、サーモンパークのイクラのモニュ メントが林の向こうに見えてきた時です。道路上に汚れ たトンビがいます。それを避けて少し行ったところで「待 てよ!写真でも撮っておけば何かに使えるかも!」と思 い、引返しました。さてトンビは、と見ると、なんとこ の鳥はオジロワシの今年生まれの幼鳥ではありませんか。 さて写真を、とカメラを出しましたがシャッターが切れ ません。オヤ?どうして?すると警告表示が出て「カー ドに残量がありません」と。がっくりです。すごすご通 り過ぎました。少し行ってからです。突然思いつきまし た。そーだ!無駄な写真を消去すれば数枚ぐらいなら取 れるはず!と。自分の頭の良さに我ながら感心しながら、 要らない写真を大急ぎで消去し、また引き返します。彼 の前を通るのは4度目です。なんとその鳥はまだそこに いるではありませんか。急いで写真を撮りました。こう して4度目とさらにUターンして5度目のすれ違いで やっと写真になりました。私が最初に見た時には車道に いたのですが、私の車がすぐ脇に止まるので歩道に上 がったところの写真です。助手席側の窓枠の向こうにワ シがいます。見たところ羽根が折れているような様子は ありません。私が見た所では巣立ち後充分に餌を獲れず に飢餓状態に陥っているようでした。ヒナとは言え巣立 ち後のワシですし、病気のこともありますからうかつに 手を出すわけにもいかず、そのまま通り過ぎました。

こんな時、あなたならどうしますか?どんな鳥であれ



オジロワシの幼鳥

巣立ち後のヒナが全て上手く育ったら増えすぎて大変で す。ある程度の犠牲が出ることが前提で繁殖は行われて いますよね。特にハンティングが必要な種では、上手く 技術が習得できずに死んで行くヒナも多いというのが自 然界です。だからと言って、「かわいそうに!」と保護 収容しようとする人を止めるようなことは野暮と言うも のでしょう。自分には「こんな基準で自然と接している よ」と言うものが各自にあるでしょう。これは大事なこ とで、それぞれの人の立ち位置は尊重しましょう。他人 に自分の尺度を押し付けてはなりません。私は長く野生 動物と付き合ってきたため、野生動物が生きていくこと の大変さや過酷な飢餓を見てきましたので、野生動物が 死を迎えるのは、「やっとお前も飢餓の苦しみから解放 されるのか!」との思いで見ることができるようになり ました。でも他の人に「これが正解だ! | なんて言える ようなものではありませんよね。こうして過酷な自然を 見ながら、自分が壊れないように無理やり納得させてい るのかもしれませんね。自然との向き合い方は人それぞ れに温度差があるものなのでしょう。

標津の港まで来た時、我が愛車(スバルXV)が3年 半で10万kmを突破しました。年に3万km走る計算で すね。自然保護とか言いながら化石燃料の大量消費です から自慢できるような話ではありません。こんなことか ら、私の小遣いはほぼ全てガソリン代に消えているのは 当たり前と言うことですか。港では数人の釣り人が釣り をしていたので見ていましたが、小サバばかりが釣れて いました。ところで最近は平日に釣りをしている人が 減ったなー!と私は思っているのですが、皆さんの印象 はいかがですか?さらに走って尾岱沼を過ぎ、春別川の 河口部で干潟に10羽ほどの鳥が寝ていたので双眼鏡での ぞきました。ウミネコとばかり思っていましたが、見た  $\mathbf{8} \tag{412}$ 

ことがないシギの仲間です。足がとても長く、細い嘴が 印象的なスマートなシギです。この鳥に似た感じの鳥は セイタカシギしか見たことがありません。これは鳥に詳 しい友人に後から種類を見てもらおうと写真を撮ります。 少し印象が違う鳥がいますので、1種類ではなさそうで す。秋は渡り鳥の移動のシーズンです。シギチドリの仲 間も日本を経由して遠く南半球まで行くのでしょう。数 日後今度は霧多布大橋の下で別のシギを見ました。こち らは以前にも見たことがあるシギで、先日見たシギとは 違い、ずいぶん足が短くずんぐりした印象のシギです。 こちらは嘴が反り返っていることから、オオソリハシシ ギと私にも分かりました。意外に思うかもしれませんが、 釧路市周辺には観察ができるような干潟がありません。 そのため、干潟を生活の場にしているシギチドリ類を見 ることはあまり多くないのです。その後、走古丹まで足 を延ばして7月に足輪を付けたタンチョウの家族を見て から、ここでも港まで行きました。ところがここは釣り 人でいっぱいです。ニシンでも釣れているのかと思って 見に行くと、なんと全員がサケ釣りです。こんなに並ん で釣れるのかよー!と思いましたが、最近はサケ釣りば かりが目立ちますね。これは単にサケ釣りばかりが面白 いだけでなく、釣具屋が客単価が高いサケ釣りの道具ば かりに力を入れているためだと私は見ています。ブーム と言うものは多分に商業ベースに乗せられて発生するも ののようですよ。

さて今日は水曜日、獣医師会に出勤する日です。事務 所で机の前に座ると間もなくです。電話が鳴り事務員が 「あーそれは振興局の何々係が窓口ですから」と。しば らくしてまた電話が鳴り「小鳥を保護しているのです が・・」と言う話なんですが、と私に言うので「私が見 に行きましょう」と答えて場所を確認し、出かけました。 ガソリンスタンドです。鳥は大事そうにタオルでくるま れていました。「この鳥はなんという鳥ですか?」私は 「メボソムシクイかエゾムシクイでしょう。」「珍しい鳥 なんですか?」「いいえ沢山いる鳥ですよ!少し様子を 見て元気になったら放してやりますから。」と言って事 務所に帰りました。どうやらガラス窓にでもぶつかった のでしょう。少しずつ元気を取り戻して来ましたので、 藪の多い所で放してやることに。そこで鳥に詳しい友人 を思いだしました。そうだ、正確な種名を聞いてみよう と。友人は鳥類標識調査員 (バンダー) ですから鳥を見 るなり「放せそうなので足輪を付けるね!」と。さすが 手際よく調べていきます。鳥を左の手のひらにあおむけ に乗せます。頭を手首側に尾を指先側に乗せます。人差



こんな風に保定します



この小さな羽根の長さで種が決まります

し指と薬指で翼を羽交い絞めするように保定すると、右 手で計測や記入ができます。「頭頂部に黄色い線がない のでセンダイムシクイではない。| これは私でも分かっ ていました。「お腹が黄色っぽいのでエゾムシクイでは ない。」残るのはメボソムシクイだけ。でもメボソムシ クイが近年3種に分けられた、とか。この3種の見分け 方はネットからでも調べられますので興味がある方はそ ちらで。翼角部にある小さな羽根の長さに差があるのだ とか。この鳥の羽根は長いので、メボソムシクイと分か りました。それから数日後のことです。私が朝窓のカー テンを開けてすぐです。窓に何かがぶつかりました。雨 が降っていたので濡れると死んでしまいそうなので急い で収容しました。これもメボソムシクイでした。こちら はすぐに元気を取り戻したので、先日世話になった友人 のところに持って行き足輪を付けて放鳥しました。こん な小鳥を保護したとき、短時間ならこんな保定方法があ ります。使うのはトイレットペーパーの芯です。今回の メボソムシクイは芯に対して小さいのでティッシュペー パーを数枚使って海苔巻状に巻いてトイレットペーパー

(413)



メボソムシクイ

の芯に押し込みました。この時足を普通に折りたたまず、 後ろに長く伸ばして包むと暴れないので良いようでした。 短時間の収容や移動時に試してみてはいかがでしょうか。 秋ですから様々な鳥たちが移動しているのでしょうね。 この時市街地に入り込みガラスにぶつかるという事故に 遭ったのでしょうが、小さな鳥の移動は我々にはほとん ど気付かないですよね。と書くとお話はこれで終わりと なるのですが、どうも腑に落ちないお話なのです。と言 うのは、メボソムシクイを3種に分けた時、メボソムシ クイは本州に、オオムシクイは北海道からカムチャッカ に、そしてコムシクイはサハリンから北に分布し、北海 道ではメボソムシクイは繁殖していない、とされたので す。私が保護したのは渡りの時期ですから、繁殖してい なくても何の問題もないのですが、本州にいて、南へと 渡るはずのメボソムシクイがなぜ北海道のしかも東の外 れで見つかったのか?しかも捕獲例は今回だけではない ようなのです。北海道の更に東に、人に知られていない メボソムシクイの繁殖地があるのかもしれませんが謎で す。

ついでに先日見たシギの写真を見せて種類を聞くと、コアオアシシギとアオアシシギが写っているのだとか。写真の鳥は足が黄色く見えますがアオアシシギと言う名前が付いていても、足が黄色っぽいのは普通だとか。そういえばメボソムシクイと言っても目は細くはありません。名前だけで想像してはダメなんですね。秋は渡りのシーズンですから色々な鳥に出会います。これからは大型のガン類やオオハクチョウが飛来し冬へと向かうのでしょう。9月30日に風蓮湖でオオハクチョウを2羽見ましたが、今期飛来したものでしょうか?夏の間も北へ行かない個体もいるので初飛来かどうかは分かりませんでした。



コアオアシシギ



オオソリハシシギ

